

人づくり、人づくり、人づくり —地域づくりは人づくりから—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 自己紹介—別紙
- (2) 地域経済の活性化は人づくりが基本との考えに基づき、人づくりを地域をあげて戦略的に
行うにはどうしたらよいかをご一緒に考えたい。

2. これからの社会で求められる基本的能力(キー・コンピテンシー)とは

- (1) 知識基盤型社会……知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力
- (2) グローバル化社会…多様な集団で交流する能力
- (3) 課題山積社会………自律的に行動する能力

3. 以上3つの基本的能力(キー・コンピテンシー)の前提となる能力・ことがら

- (1) 学び方を学ぶ能力
- (2) 読書による思慮深さ
*新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力
- (3) 高い志(志高く生きること)

御参考(1)

- ・内村鑑三著「後世への最大遺物、デンマーク国の話」(岩波文庫)
- ・人は自分が死んだ後に後の世に何が遺せるか。
①お金、②事業(仕事)、③著作(作品)、④教育(教え)、⑤生き方(よい生き方)
- ・「代表的日本人」

4. 2025年までに、高齢者(後期高齢者、超後期高齢者)の「人づくり」を

- (1) 60歳から100歳すぎまでどうよく生きるか、「いつまでも若々しく生きる」にはどうしたら
よいか、一人ひとりが徹底的に考え、なすべきことを成し遂げてはじめて、2025年問題
が解決できる。
- (2) 「自己責任」、「自助努力」、「自分の身は自分で守る」、「生涯現役」、「あきらめたらおし
まい」。
- (3) 教育の目的は「よく生きる」こと。

60歳からの人々にこそ教育が必要。

御参考(2)

教育の質とは

- ①カリキュラムの質
- ②教師(先生)の質
- ③マネジメントの質

御参考(3)

教育の成果を決定する要因

- ①本人の自覚
- ②教師の力量(「本人の自覚」を促すのも教師の力量)
- *ただし、「勉強の仕方」と「勉強時間の長さ(絶対量)」も大事。

(4)「60歳から100歳すぎまでの人々のための教育カリキュラム」を策定することが重要。

①60歳からの人生設計(ライフ・プラン)をどうするか。(60歳代、70歳代、80歳代、90歳代、100歳代)

㊦市内、日本国内、海外のベストプラクティスのベンチマーキングを

㊦自分でよく考え、その年代に入る5年前から準備をする

②成人病予防カリキュラム

③機能回復訓練カリキュラム

④嚥下能力強化カリキュラム

⑤痴呆症予防、痴呆症回復プログラム

⑥尊厳死を考えるプログラム

(5)「社会教育」の中に60歳から100歳すぎまでよく生きるためのカリキュラムを入れ込み、一人残らず受講してもらう工夫を。

御参考(4)

(1)ドイツでは「老人大学」がさかん。米国では「コミュニティ・スクール」がさかん。

日本には中学校や高校レベルの内容をもう一度勉強したい中高年齢者が数多く存在する。

(2)一方、「No Study Kids(ノー・スタディ・キッズ)」と呼ばれる高校卒業までに十分に勉強しなかった人が、入学者が激減している大学や短期大学、専門学校等の高等教育機関に入学し、大問題となっている。

(3)大学等の秋入学を推し進め、中学校や高校の勉強をもう一度したい中高年齢の人々とNo Study Kidsとよばれる学力不足の高校卒業生の双方に、各大学は高校と協力してコミュニティ・カレッジを設立し、高校レベルの内容を再学習する機会を与えることを提言する。

(4)大学等への入学が決定したすべての高校生に、高校の学習内容のうちどこが身に付いていないのかの評価テストを行い、不足する学力をコミュニティ・カレッジで社会人と学びながら秋入学までに補うことが、大学生の学力不足問題解決のために有用と考える。

5. 医療・介護・福祉の担い手の「人づくり」を

(1) 今後不足すると言われる医療・介護・福祉の担い手確保の要諦は、専門職の人々に自らの潜在能力発見の機会と能力強化(Empowerment エンパワーメント)の機会を戦略的に準備すること。

(2) 外国人の専門職雇用のために

㊦外国人の専門職が住みやすい居住環境を整えた街づくりをする

㊧日本語教育、日本事情の理解のプログラムを周到に準備する

㊨外国人の子育て環境を整備する

*すべての小・中・高・大学・短期大学・専門学校・大学院、社会教育施設(公民館等)やコミュニティ・カレッジに日本語修得クラスを設置することを、自治体が存亡を懸けて取り組むこと。

御参考(5)

日本語のレベルとは、

①生活日本語

②学習日本語

③定期テストが受けられるレベルの日本語

④高校入試・大学入試が受けられるレベルの日本語

⑤就職試験が受けられるレベルの日本語

⑥仕事や社会的活動ができるレベルの日本語

(3) 診療結果、処遇結果のデータに基づいた最適の医療・介護・福祉の情報共有化、標準化、PDCA サイクルをまわすことによる地域全体での改善活動を

(4) 60歳以上の学習プログラムに連動させ、自ら生きる力を育成する

6. 「ものづくり、ことづくり」を担う「人づくり」を

御参考(6)

足利市の「5S」と「論語」の取り組み

(1) 足利市では足利商工会議所が中心となり、「足利 5S 学校」、「5S のまち足利」、「5S によるまちづくり」を推進している。

(2) 「5S」とは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」をローマ字表記したときの S からとったもので、「改善活動」の中心的概念となっている。

(3) 一方、足利市長は日本最古の学校、足利学校を中心として中世以降に日本国中に紹介された「論語」の素読運動を全市的に展開して、「論語によるまちづくり」を目指している。

(4) 今後は、「5S」と「論語」を有機物に組み合わせ、街づくりのターボエンジンとする取り組みが求められている。

(1) 従来からのデフレにグローバル化と世界的な経済危機、超円高、東日本大震災、放射能汚染が加わり、日本は製造業だけでなくすべての産業が収縮状況に陥っており、この状況は2012年以降更に深まるとも予想される。

一方、韓国、中国、インドやベトナム、インドネシアをはじめとするアセアン諸国は一人当たり GDP をどんどん伸ばし、3000 ドルを超えるところも多い。シンガポールの一人当たり GDP は日本を超えた。

(2)このような困難な状況を切り抜け、自らの企業や事業所を永続的に継続させるためには、現代社会が真に求める「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」、「多様な集団で交流する能力」、そして、何よりも「自律的に活動する人材」を地域として戦略的に育成することが求められる。

(3)例えば、市内の大学や短期大学、専門学校などが MOT(マネジメント・オブ・テクノロジー、技術経営)の中・長期的な視点での大学院修士レベルのコースをスタートさせ、ものづくりやことづくりの担い手を育成することを提言したい。

(4)5S 活動を街をあげて推し進めていくと、見学会などを通じて相互学習が進み、各企業が保有している高額な機械が認識されるので、必要な場合に使用させてもらうことも可能となる。また、業種は異なっても総務や検査など共通する業務も多数あり、情報の共有や人材の交流も可能となる。

5S を核として地域の企業間の連携を進めることを、私は「5S クラスター」と名づけて推進したい。

(5)ものづくり、ことづくり、すべての業種で「打って出る人材」こそ、現代は望まれる。

①地域の外国人留学生をすべて地元企業で受け入れ、企業や事務所の DNA を十分理解してもらった後に、日本と同じ雇用条件で母国に帰り、自社の社員として活躍してもらったらどうか。また、海外との取引の担当者とさせたらどうか。そのためには、外国人が働きやすい職場環境の整備が求められる。市としてこれを全面的に支援すべきこと、言うをまたない。

②グローバル人材の育成のための国内外のベストプラクティスをトップや経営幹部は勉強し続けるしくみをつくること。そのための支援を、市は全面的に行うこと。

③市長や市議の先生方も、アジアの新興諸国の状況を定期的に視察すべきだ。中国、インド、ベトナム、シンガポール、インドネシア、タイは毎年必ず視察し、打って出るものづくり、ことづくりをどのように支援するかを実地で考えるべきだ。

(6)就業人口の 7 割を占めると言われる「ことづくり」、「サービス産業」を活性化させ、雇用を維持・拡大させることは少子高齢化対策として急を要する。

①ただし、サービス産業はバラツキが大きく、また、異常値が出やすいことが原因で、生産性が製造業と比べて極めて低いところが多く、製造業からの雇用の受け皿になることは難しい。

②その理由は、作業の標準化が進まないからだと言われて久しい。そこで、サービス産業も製造業と同じように、次の手順で取り組むことが求められる。

⑦ 5S

⑧ 基礎教育

⑨ 標準化

⑩ 統計的手法の活用

⑪ 日常業務の改善

⑫ 戦略的方針管理

⑬ ISO(国際標準)

⑭ シックス・シグマ

⑮ デミング賞

⑯ TQM

⑰ 日本経営品質賞

③サービス産業を活性化させるために、すべての自治体はサービス政策課を設置し、日本生

産性本部や栃木県生産性本部の「サービス産業生産性向上協議会」などと協力し、ホスピタリティの基本である「おもてなし」から「サービス工学」の基本に至るまで励まし合いながら、街をあげて学ぶべきである。これからの時代を担うサービス産業こそ、「人づくり」を「地域」が戦略をもって行うべきである。

6. おわりに―「教育」を担う人づくりを―

(1)すべての正規の教育機関(Formal Education)、非正規の教育機関(Non Formal Education)、学習サービス機関(Learning Services)の担い手である先生と事務スタッフの能力強化(Empowerment エンパワーメント)が、地域の教育レベル向上のカギである。

- (2)①幼稚園
②小学校
③中学校
④高校
⑤大学
⑥短期大学
⑦専門学校
⑧大学院
- ⑨様々な習いごと
⑩学習塾
⑪社会教育機関
⑫スポーツクラブ
：
- およそ世の中で他人にもものを教える先生と呼ばれる人々の能力強化をどうはかるか。そのしくみづくりを。

(3)市議会議員の皆様への提案

- ①審議会の設置を
②政策型条例の制定を

(4)私の好きなことば

- ①一生勉強、一生青春
②会った人は、皆、友達
③いつまでも若々しく生きる
④目には遠いが心は近い
⑤一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)
⑥持続する志
⑦歴史における個人の役割

皆様の御活躍と地域の御発展を心から御祈念申し上げます。

以上

(2012年2月14日記)